平成22年

港区ごみ減量優良事業者等表彰
受賞者の紹介

受賞者

- 商船三井ビルディング
- 世界貿易センタービルディング
- 第一ホテル東京
- 虎ノ門37森ビル
- フジテレビ本社ビル

（五十音順）

港区は、事業所が集積する都心区という地域特性から、区内から排出されるごみの80%以上を「事業系ごみ」が占めるという特徴があります。

「事業系ごみ」の減量を着実に進めるためには、事業者による“ごみの発生抑制”“リサイクル（資源化）への取り組み”が必要不可欠となっています。

そこで、「事業系ごみ」の減量とリサイクルの一層の推進を図るために、平成21年に「港区ごみ減量優良事業者等表彰制度」を創設し、高いリサイクル率を達成するなどの顕著な実績を上げ、他社に誇れる模範的な取り組みを行っている事業者等を表彰しています。

これらの優良事業者の模範的かつ先進的な取り組み事例を、区内事業所への立ち入り指導の際に効果的に活用し、「事業系ごみ」の減量・資源化を図るための一助として役立てていきます。

港　区

商船三井ビルディング

港区虎ノ門二丁目１番１号

受　賞　者	ダイビル株式会社
延 床 面 積	34,655.23 ㎡
廃棄物発生量	203.4ｔ／年
再 利 用 量	145.1ｔ／年
再 利 用 率	71.3%

（平成 21 年度実績）

表彰理由

株式会社商船三井ほか15社が入居するオフィス系テナントビルです。社員食堂も併設されています。

リサイクルの推進により処理コストの削減が可能な「紙類」にターゲットを絞り、古紙の回収品目の一つに「ミックスペーパー」を導入しています。徹底した紙ごみ減量・紙類リサイクルにより、紙類は96.2%もの高いリサイクル率を誇っています。

廃棄物・再生資源の収集運搬契約は、排出量により毎月の支払額が変動する「単価契約」で、排出量については、建物内での計量器による「実量測定」で把握しています。

特筆すべき優れた取り組みは以下の３点です。

① 廃棄物処理コスト削減のため、紙ごみ減量、紙類リサイクルに着目し、「ミックスペーパー」を導入するのみならず、大部分の紙類の受入が可能な製紙工場を実際に視察し、検証した上で最終的な受入先に選定している。

② 紙類の徹底したリサイクルを図るため、社員食堂内の分別にまで「ミックスペーパー」を導入している。

③ ベンダー回収分のビン・缶・ペットボトルまで建物内のごみ計量器にて「実量測定」している。

「ミックスペーパー」の導入により、廃棄物処理コストの削減を図りつつ社員食堂まで含め、建物内で発生する大部分の紙類を徹底的にリサイクルしようとする試みは、区内の他のオフィスビルの規範となる、素晴らしい取り組みと言えます。

受賞者の声

当社は「ビルを造り、街を創り、時代を拓く」をポリシーにオフィスビルのパイオニア企業として、ビル建設と環境保護の両立を追及してきました。

事業系廃棄物の適正処理につきましても、いち早く取り組みを開始しました。まず廃棄物に携わる従業員(主に清掃従事者)の教育を実施。廃棄物の種類、分別方法、廃棄物の収集から処分までの流れ等、全員が理解できるよう、処分工場、リサイクル工場、焼却場などの見学を実施。また廃棄物業者様に講習会を開いていただくなどして、意識、知識の向上を計りました。現在も社内教育の一貫として、継続して実施しています。

社内教育と並行して、廃棄物処理場の整備、リサイクルボックス等の見直しを行い、また自動計量システムを導入しデータ管理を行うことにしました。テナント様ごとの計量も実施し、計量したデータを各テナント様に提供し、リサイクル率向上やゴミの削減に役立てて頂いています。

社内の体制が整い、当社がまず目標に立てたのが、紙類の100%リサイクルです。現在ではほぼ達成できています。次に蛍光管の100%リサイクルを達成。現在は生ごみのリサイクルに取り組んでいます。一つ一つ目標を達成して、目指すところは、廃棄物の100%リサイクルです。

テナント様にはダイビルとしての環境への取り組みを十分理解していただき、リサイクル率の向上、ゴミの減量に協力いただけるよう今後も活動を継続していきます。

ビルの資産価値は居住性、セキュリティーや耐震性などの安全・安心、ＩＴ環境などの利便性だけでなく、環境への真摯な取り組みも大事な資産価値と考え、今後も、廃棄物の適正処理を含めた環境保護に前向きに取り組んでいく所存です。

世界貿易センタービルディング　港区浜松町二丁目４番１号

受　賞　者	株式会社世界貿易センタービルディング
延 床 面 積	153,800.00 ㎡
廃棄物発生量	1,498.2ｔ／年
再 利 用 量	1,406.8ｔ／年
再 利 用 率	93.9%

（平成 21 年度実績）

表彰理由

オフィス、店舗、飲食店等100以上のテナントが入居する区内有数の大規模複合テナントビルです。

多くの飲食店が入居しているにもかかわらず、再生可能な紙類のリサイクル率がほぼ100％、厨芥（生ごみ）のリサイクル率も70％に達しています。

廃棄物・再生資源の収集運搬契約は、排出量により毎月の支払額が変動する「単価契約」で、排出量については、建物内での計量器による「実量測定」で把握しています。再生品も積極的に購入し使用しています。

特筆すべき優れた取り組みは以下の３点です。

①「ミックスペーパー」を導入するのみにとどまらず、分別の徹底による紙類100％リサイクルを目指している。

② 高いリサイクルコストを飲食テナントのみに負担してもらうのではなく、ビル側も負担・折半し、建物全体で食品リサイクルに取り組んでいる。

③ 食品リサイクルに取り組む飲食テナントに対し、インセンティブの意味合いもこめたPR用の「食品ごみリサイクル処理完了証明書」を発行するなど、ユニークな試みを行っている。

極めて高いレベルで廃棄物処理、リサイクル推進のシステムやルールが確立されており、テナントの協力体制も整っています。他の大規模複合テナントビルの規範となる、素晴らしい取り組みを行っています。

受賞者の声

当ビルは、ＪＲ浜松町駅に隣接した高層複合ビルで、竣工後41年を迎えました。この間、廃棄物処理につきまして、歴代担当者の高い意識とテナント各位の理解・協力の下、様々な取り組みを実施して参りました。

廃棄物の分別は、テナント事業所での１次分別、各階に設けられた分別保管室での２次分別、それらを最終的に集積するゴミ処理室の３次分別を行っております。また、ビン・カンなどの資源廃棄物は元より、紙類も早い時期から製紙会社の協力を得て「ミックスペーパー」としての処理を確立し、リサイクル率を約70％まで向上させました。そうした中、食品リサイクル法が施行されたのを機に、焼却していた生ごみのリサイクル問題に直面しました。飼料や肥料への自社設備による再生処理や委託処理を検討しましたが、再利用先が遠方のため、リサイクルの趣旨に反することや、多様な飲食店舗では、分別の徹底が困難であることなども理由に断念しました。最終的に外部のバイオマス発電施設を活用したリサイクルシステムを採用し、店舗に新たな費用負担が生じる問題もビルが一部支援することで理解を得ました。実施後は、リサイクル証明書を発行し、店舗の士気の向上にも寄与しております。その後、廃プラについても、ＲＰＦやサーマルリサイクルにより現在では、リサイクル率は90％以上に達しました。

これらを効率的に実践する場所として数年前にゴミ処理室を改修しました。計量システムや食品ゴミの衛生的な保管のための大型冷蔵庫を導入し、また、破砕、圧縮、溶解作業により減容することで、運搬時のCO_2削減にも貢献しています。更に、品目毎の毎月発生量とリサイクル率の掲示やリサイクルートの図化・展示などをすることで「廃棄物再生処理施設」と命名し、見学施設としての様態も整えております。

これまでの取り組みが評価され、この度、表彰されましたことに、ビル関係者一同感謝しておりますと共に、今後も引き続き、廃棄物処理の維持、向上に努めて参りたいと考えております。

第一ホテル東京

港区新橋一丁目２番６号

受　賞　者	第一ホテル東京
延 床 面 積	44,012.00 ㎡
廃棄物発生量	353.2ｔ／年
再 利 用 量	246.2ｔ／年
再 利 用 率	69.7%

（平成 21 年度実績）

表彰理由

客室277、結婚式場、レストラン、ラウンジ等を備える従業員420人、外来者2,000人／日の都市型大規模ホテルです。

紙類のみならず、社員が着用していた制服のリサイクルにも積極的に取り組み、厨芥（生ごみ）は、高速発酵機（生ごみ処理機）を使用することで86％も肥料化しています。ホテルという高いリサイクル率を出すのが難しい業種ながら、全体でも70％近いリサイクル率を誇っています。

廃棄物・再生資源の収集運搬契約は、排出量により毎月の支払額が変動する「単価契約」で、排出量については、建物内での計量器による「実量測定」で把握しています。

特筆すべき優れた取り組みは以下の３点です。

① 分別ボックスや廃棄物保管場所に掲示してある分別表示を社員自らがオリジナルで作成し、誰もがわかりやすいよう工夫がこらされている。

② 先進的な取り組みを行うホテルをいくつか選定、視察するなど、十分な調査を行った上で良いものを積極的に取り入れている。

③ ホテル全体が担当の声が届く風通しの良い職場となっていることから、廃棄物管理業務に携わる社員による清掃クルー、ホテルスタッフへの統制・指示が機能し、分別意識の向上につながっている。

極めて高いレベルで廃棄物処理、リサイクル推進のシステムやルールが確立されており、ホテル内での協力体制も整っています。区内の他のホテルの規範となる、素晴らしい取り組みを行っています。

受賞者の声

当ホテルは、新橋駅前に立地する地上21Ｆ、地下５階、客室数277室、料飲施設11店舗、宴会場８会場を有する施設で、年間利用人数は約60万人に及びます。事業内容柄、大量の廃棄物を排出していたことやリサイクル率が19％と非常に低かったことが要因で2003年秋に全従業員を巻き込んだプロジェクト＜プロジェクト1530（第一ホテル東京のゴミゼロ）＞を発足し、廃棄物削減・リサイクルに取り組みました。

スタート当初は、ゴミの分別から開始。ゴミ分別表の作成、ゴミ置き場の配置図作成、ゴミ箱の色分け等を行いました。従業員への分別の周知徹底・意識付け・基礎教育は、会議・ミーティング・新入社員研修での講義等を活用。これにより、従業員の廃棄物削減・リサイクル意識を高め、一丸となって取り組み、体制を整備しました。

第二段階に入り生ゴミ削減に取り組みました。重量の大部分を占める水切りを徹底するため、ザル付ゴミ箱を導入。さらにコンポストを導入し、安定した運用を行った結果、廃棄物全体で排出量を40％削減するとともに、リサイクル率も70％に近づけることに成功しました。

ここまで推進するのには大きなマンパワーが必要でありましたが、従業員の理解・協力があって取り組んだ結果が今回の受賞に繋がったと確信しております。受賞を機に＜プロジェクト1530＞を再度フォーカスし、全従業員に周知いくことで推進力をさらに増して、環境配慮型のホテルを目指し一丸となって取り組んでいく所存です。

虎ノ門37森ビル

港区虎ノ門三丁目5番1号

受　賞　者	森ビル株式会社
延床面積	36,735.00㎡
廃棄物発生量	199.1ｔ／年
再利用量	146.5ｔ／年
再利用率	73.6%

（平成21年度実績）

表彰理由

オフィス15、医療機関2が入居するオフィス系テナントビルです。

紙類のリサイクル率を高めるため、平成20年12月以降、テナント事務室内に設置されている分別ボックスを3段から4段に変更。分別4段ボックスは、「ＯＡ紙」「雑誌類」「新聞」「その他リサイクルする紙」の4分別。その他、「リサイクルしないゴミ」「プラスチック等」の分別2段ボックスを設置。また合わせて給湯室での分別を「ビン」「カン」「ペットボトル」「プラスチック、弁当容器等」「リサイクルしないゴミ」「生ゴミ」「タバコ」の7分類として、建物内で独自の分別回収システムを構築しています。

廃棄物・再生資源の収集運搬契約は、排出量により毎月の支払額が変動する「単価契約」で、排出量については、建物内での計量器による「実量測定」で把握しています。

特筆すべき優れた取り組みは以下の3点です。

① 森ビル独自のリサイクルハンドブックを作成し、分別ルールに従ってもらうようテナントに配布している。具体例を挙げるなど内容もわかりやすく、分別ボックスの表示とあわせ、創意工夫がこらされている。

② 建物内のルールとして、清掃員による回収は、原則、森ビルが設置した分別ボックス内のもののみとし、デスク周りの個人のごみ箱からは回収しない取り決めをしている。

③ 清掃業者を交えた会議を定期的に実施することで各テナントの分別状況を把握し、分別が行えていないテナントに対しては、その都度、改善要請する仕組みが構築されている。

極めて高いレベルで廃棄物処理、リサイクル推進のシステムやルールが確立されており、区内の他のオフィスビルの規範となる、素晴らしい取り組みを行っています。

受賞者の声

昭和56年9月に竣工した地上13階、地下2階の事務所ビルです。弊社は約20年以上前からビルで発生するごみの分別に取り組んでおりますが、当時はまだごみの減量やリサイクルの意識も低く、再利用・資源化できるごみも限られており、ごみの減量化・リサイクル率向上を目的とした仕組みができていませんでした。しかし、近年、環境への取り組みや3Ｒへの意識の高まり、多くのごみが分別・リサイクルできる環境が整ってきたことから、現状の分別・リサイクルの見直しと新たな仕組み、体制の構築を行うことになり、2008年より3Ｒプロジェクトを立上げ、新たな分別回収、資源化に向けて、廃棄物処理体制と再利用率向上への取り組みを開始しました。

（1）ごみ量の適正な把握・収集運搬契約の定額制から従量制への変更

計量することでビルから発生する分別ごみやリサイクルの状況が把握でき、収集運搬契約を従量制にすることで、ごみの処理費への関心が高まり、リサイクル率の向上が期待できます。

（2）新ルールの構築と普及

① 分別区分の見直し、② リサイクルハンドブックの作成、③ 森ビル独自の分別ボックスの設置、④ クリーンスタッフは机周りのごみ箱の中身を回収しない（※新規および協力テナント）、といった独自の分別ルールを構築し、建物内での普及を図るとともに、年1回の清掃会議を通じて、弊社委託清掃会社に対するルールの説明・協力要請を行っています。

以上のような取り組みを実施してきたことでリサイクル率はごみ全体および紙ごみで70％を超え、いずれも新体制スタート時と比べて向上しました。今回の受賞は、弊社の活動を高く評価していただいた結果であり、それには入居テナント各社のご理解・ご協力とビル清掃係員の真摯な取り組みによるところが大きく、誠に感謝しております。弊社としましては今回の受賞を励みとし、更なるごみ減量化・リサイクル率向上を推進していく所存であり、その為に日々の改善と継続した取り組みを実施してまいります。

フジテレビ本社ビル

港区台場二丁目４番８号

受　賞　者	株式会社フジテレビジョン
延 床 面 積	141,825.00 ㎡
廃棄物発生量	1,459.2ｔ／年
再 利 用 量	1,442.6ｔ／年
再 利 用 率	98.9%

（平成 21 年度実績）

表彰理由

オフィス、スタジオ、見学・イベントスペース、グッズ販売店、食堂、飲食店を有する在ビル 5,000 人／日の日本屈指のテレビ局本社ビルです。

廃棄物・再生資源の収集運搬契約は、排出量により毎月の支払額が変動する「単価契約」で、排出量については、建物内での計量器による「実量測定」で把握しています。再生品も積極的に購入し使用しています。

特筆すべき優れた取り組みは以下の４点です。

① 机周りにごみ箱はなく、部署ごとの分別率を毎週数値化、イントラアップすることで、社員に実 状をフィードバックし分別の意識付けを行っている。

② 放送局ならではの独自のユニークな標語やキャッチコピーを駆使し、また部署対抗の分別率の競争なども採り入れ、社員・スタッフへの啓発、分別率の向上に励んでいる。

③ 分別ボックス前に掲示してある分別表示は、文字だけでなく、写真を採り入れた大変わかりやすいものとなっている。

④ オフィスと同様に社員食堂内にも分別ボックスを設置し、写真入りの分別表示も掲示している。

極めて高いレベルで廃棄物処理、リサイクル推進のシステムやルールが確立されており、区内の他の事業所の規範となる、素晴らしい取り組みを行っています。

受賞者の声

平成17年フジテレビのごみリサイクル率は69.4%と港区の目標値85%を大きく下回っていました。そこで、その翌年の平成18年６月、当社の年間キャッチフレーズ「GO FOR NO1 テレビの勇気」の下、社内一丸となって、ごみ減量やリサイクルに対する取り組みをスタートさせました。

まずは、捨てていた「ごみ」をリサイクルする為に、手元でどのように分別するかを考え、それまでの個人用ごみ箱を廃止して、「紙類」「プラスチック類」「ビン・缶・ペットボトル」「その他ごみ（前述の３種類以外）」など、合わせて11種類の分別ゴミ箱を各フロアに設置する事から始めました。

そして、次の段階として、働く皆様に、より分別に対する意識を高め、「遊び心」を掻き立てる手段として平成18年９月より「めざせ！ゴミ分別100% たすきリレー」キャンペーンと題し、“分別率”の数値を公表し、各局がたすきをリレーしていく事で、対抗意識・分別意識を盛り上げました。

このキャンペーン２弾では更にヒートアップし、金色のごみ箱型トロフィーを作成し、各部署間の激しい争奪戦が繰り広げられました。その成果もあり、社内における分別意識は大変高まってまいりました。

平成20年４月からは「地球環境改善のための３本の矢」と題し、さらに環境を考えた取り組みとして、ごみ減量の為の社用封筒等の使いまわしの推奨、また電気使用量削減の為、照明のスイッチオフの推奨、それにごみ分別を含めた３本立てのキャンペーンを実施しています。この試みでは分別率と合わせて封筒・手提げ袋などの使用量、電気使用量のCO_2換算数値を毎週毎月発表する事により、エコに対する意識が高まり、かなりの費用の削減をも達成しています。

これからも楽しみながら更に環境への意識を高めていき、様々な角度から社会に貢献できるよう、フジテレビ社員一同、頑張ってまいります。今年のキャッチフレーズは「はみ出せ！飛び出せ！フジテレビ！」です。

発行　港区環境リサイクル支援部　みなと清掃事務所
〒108-0075　港区港南3-9-59　TEL（3450）8025
平成 23 年３月発行　発行番号　22150 － 5641